

ロシアの金融情勢について

政策金利を7.0%から7.5%に引き上げ

2014年4月25日、ロシア中央銀行は金融政策決定会合を開催し、政策金利である1週間物入札レポレートに0.5%引き上げ、7.5%とすることを決定しました。先月の臨時会合で1.5%の利上げが行われていたことなどから、市場では据え置きが予想されていました。

今回の利上げについて同中銀は声明の中で、ルーブル安や期待インフレ率の上昇などを受けたインフレリスクについて指摘しています。今回の利上げによって2014年末までに、6%を超えない水準までインフレ率を抑えられるとの見通しを示すとともに、「今後数か月は政策金利を引き下げる意図はない」としました。

次回の金融政策決定会合は2014年6月16日の予定です。

外貨建て長期債務格付をBBBからBBB-に引き下げ

同日、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)は、ロシアの外貨建て長期債務格付を「BBB」から「BBB-」へ、自国通貨建て長期債務格付を「BBB+」から「BBB」へ、それぞれ1段階引き下げました。S&Pは先月、ロシアのクリミア編入をきっかけとしたウクライナ情勢の緊迫化を背景に、格付見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げました。

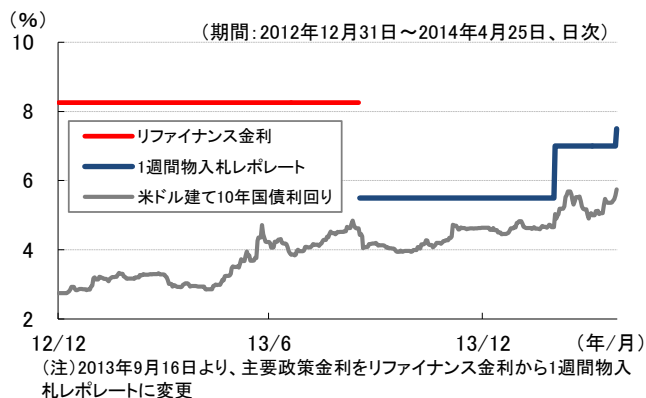
今回の格下げの背景としてS&Pは、2014年1-3月期の資金流出額が、経常黒字の2倍になったことなどを挙げ、ウクライナを巡る地政学的緊張によりロシアから国内外の資本がさらに流出し、経済成長を悪化させる可能性を指摘しています。

見通しについては、成長の一段の悪化、米国やEUの追加経済制裁などのリスクを挙げ、「ネガティブ」に据え置きました。

25日のNY外国為替市場では、対米ドルで前日比0.6%程度、対円で同0.8%程度のロシアルーブル安となりました。

以上

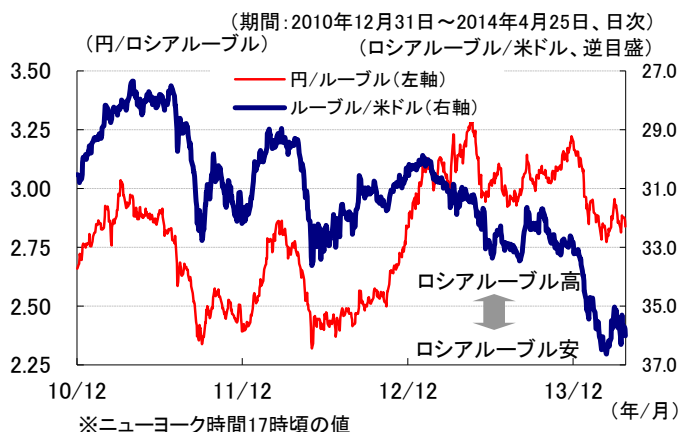
【図1】ロシアの政策金利と米ドル建て10年国債利回りの推移



【図2】ロシアの外貨建て長期債務格付(2014年4月25日現在)

格付会社	4月25日発表	4月25日発表以前
S&P	BBB- (見通しは「ネガティブ」)	BBB (見通しは「ネガティブ」)
(参考) ムーディーズ	Baa1 (見通しは「ネガティブ」)	(参考) フィッチ
		BBB (見通しは「ネガティブ」)

【図3】ロシアルーブルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。